

敗記念會を前記の諸君に先を思ひ  
出さず。後者の建白書を送つたがその旨は  
少しも諸君に省かす水子に其然年日  
報知社の活字台 顛面復をギツク下各  
社の再復の諸業と云ふ也

そしつ諸君此の點數日身は又適當の  
時期を見よの差しは近い將來のこと  
言ふ諸君の公約に依つて深く是付いた  
のであつた

今後には了建白では不い催先が僕  
等日誌に年額先づ復生年の入るこ  
開いて三度諸君は八時召寄富制  
員数男銀八十日割とと要求するの議

を決り先づ諸君の再復の公約の即  
時実行を迫る事のである

大正十一年二月末

新聞正組  
王進 印

而して毎日遠京日且報知社、都、四社、面分  
謝絶、也事と、時業、東京、報知、中、東、國、民  
ハ新聞社會見、更々回答ヲ導入スル、

也事と(既ニ計劃中ニ在リ実行願ハシ明カニ既ニ)  
時事(本社ハ既ニ実行中ナリ)  
朝日(本社ハ既ニ実行中ニ在リ)  
諸君當リ各日八時召寄  
中東(本社職工ハ八時召寄ヲ稿ニ在リ)